Eにしっかり伝え、 消費 の意見を政府を通じOI 分な議論を経ないまま当 れる見通しの中、生産者 費者、学識経験者との十 ェルフェア(AW)コー 体に感化された消費者、 E)の採卵鶏アニマルウ

物愛護団体の存在、同団 ドが1~2年中に決定さ 1999年に生産者、消 国際獣疫事務局(OI 境界を見失った過激な動 時のEU幹事国であった の科学的合理性をしっか めているケージシステム の過程を経て完成度を高 離は必須で、平飼い養鶏

重要な時期を迎えていま nとなる日本発信AWを がWin、Win、Wi 確立しなければならない 一つあります。 いく上で大切な論点がります。 日本発信AWを確立し 冷静に認識する必要があ 生産者、流通関係者 独政権与党グリーンパー ティー主導で強引に発令 /EC」等、混乱を基調 された平飼い指向の法律 とした動きであることを 「EU指令1999/74 二。気候、人口密度の

AWを先進的と誤認しなが長く、高湿度、夜間冷 のEU、北米、カナダの 一・世界人口比率12% 違い 日本は欧米に比べ夏季

米から多くを学んできま 栄養、鶏病管理等、純技 術的な問題については欧 日本の採卵養鶏産業は の鶏卵を、世界トップレに、多段直立ケージの数 物質フリーの安全・安心 す。このような狭い国土 しやすい気候です。抗生 ア、ワクモ等害虫が増殖 の人口密度(可住面積当 リを健康に飼育し③生産 却が少なく、バクテリ 対比20倍、英国対比7倍 たり)も重要な論点で 夏季問題に加え、米国

えられます。

①~③の端的な指標は

を設けるエンリッチドケ 究結果のポイントは「1

しやすい従来型ケージの

とができます。前出①~

ノプラザ2-10)

(岐阜県各務原市テク

あけましておめでとう した。 しかし欧米のAW ペットと産業動物の は、トリの鶏糞からの分 の鶏卵を物価の優等生価 3個、総量二百数十万% を、国民の重要なたんぱ こだわりの平飼いタマゴ 格で供給していくために ベル年間1人当たり33 く質、鶏卵の生産方式と 等は別として、前項の日 ません。 するのは現実的ではあり

倍の敷地を要する平飼い

産卵成績と生存率です。

ージの位置付けを検討す 羽当たり生活スペースを

性能と実績を冷静に位置

AWは人間無視のAWで ③をないがしろにした④

あり、①~④の調和のと

日本発信AWの方向

本の気候、人口密度を考 え合わせると、日本発信 AWはケージシステムの 同研究による従来型ケー 〇平方だ。以上とすれ し、岐阜大学との産学共 プローチの必要性を痛感 応した採卵鶏の飼育管理 は、この検討の科学的ア 会が『AWの考え方に対 る必要があります。弊社 指針』に示している43 公益社団法人畜産技術協 の農業現場の取り組みと な食糧供給を目指す日本 付ける必要があります。 農水省では安全・安心 JGAP

と考えます。生産者の皆 れたAWが日本発信AW

A

一・人の生活を支える 通関係者のWin、Wi チドケージに変換できる (フェザースコア、鶏冠 が、消費者、生産者、流 ジ、必要によりエンリッ 産卵成績、福祉レベル中で確立していくこと ジ、エンリッチドケー ば、3試験区間における



代表取締役社長機 ハイテム 安田

関係者への啓蒙活動を進 ろ産業動物(家畜)とし いくと考えます。 り認識し、消費者、流通 優良たんぱく質生産を担 n、Winにつながって エンリッチャブルケージ 損傷スコア)、長期スト めていく必要がありまての認識 産業動物である採卵鶏 二。従来型ケージとエ 4年に開始、3試験区を差はなかった」との内容 の比較試験研究を201 レス(H/L比)に有意

性を高める、であると考 ①快適な環境を与え②ト でAWを追求していく過 AWのあるべき方向は、 ンリッチドケージ ト、止まり木、スクラッ 程で、ケージの中にネス ケージシステムベース 学内に整備、2群反復に (擬似砂浴び)エリア まとめ中ですが、試験研 よる試験を行ないまし 以上かけ完成度を高めて 在、学術論文として取り た。試験研究の詳細は現 備える試験鶏舎を岐阜大 でした。 く、高産卵成績を引き出 きた、クリーンでトリの 観察を含め管理がしやす 第二次大戦後、数十年 P認証マークをつけるこ

e) をスタート、201 るため2008年に、J 体になり、消費者に伝え ことを期待したいと思い 努力を、流通関係者と一 7年には畜産に拡大、平 Agricultural Practic GAP (Japan Good Wを定着されていかれる 様がJGAPを通じ、 最高水準の品質、世界最 消費量、生食可能な世界 水準の1人当たりタマゴ タマゴ王国(世界最高

が、認証されればJGA 受ける必要があります めには、同協会の審査を 境保全③労働安全④アニ 要件は①食材の安全②環 マルウェルフェアです。 の予算措置を講じて普及 成30年度では1・9億円 を図っています。 JGAP認定を得るた ジア地域包括的経済連 畜産JGAP農場取得 アジアのモデルとなる日 ェアを確立する必要があ の自信と誇りをもって、 携)進展で予想される中 ります。 RCEP (東ア 本発信アニマルウェルフ 高水準の産卵成績)日本 と考えます。 世界人口の6割を占める 国卵対策としても重要だ